様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成　２５　年　６　月　９　日現在

機関番号：　１５４０１
研究種目：　挑戦的萌芽研究
研究期間：　２０１１　～　２０１２
課題番号：　２３６５３２９８
研究課題名（和文）シティズンシップ教育の学校パイロット評価研究－カリキュラムと実施における教育効果－
研究課題名（英文）A pilot study of evaluation on citizenship education in the schools: Focus on educational effects of educational program and its performance
研究代表者
池野　範男　（IKENO NORIO）
広島大学・大学院教育学研究科･教授
研究者番号：１０１５１３０９

研究成果の概要（和文）：
本研究は、国際的な研究を行うために、世界の代表的シティズンシップ教育研究者を集め、評価計画を策定し、学校パイロット研究として実施し、その効果を検証し、次のIEAシティズンシップ教育研究のアジェンダを作成することを目的としていた。(１)平成２３－２４年の２ケ年で実施し、(２)評価研究の真価を高めるために、シティズンシップ教育の評価研究領域を限定し、（３）より詳細なデータ収集を可能にするために、（４）１０ケ国・地域に限り、(５)確立した評価方法を実施、(６)効果の比較検討を行う。その過程で、(７)評価方法と評価規準を実証・実験的に確立するものであった。

研究成果の概要（英文）：
The pilot study aims to call together international researchers on citizenship education, to make the plan of evaluative study on citizenship education in the schools, to confirm the educational effects and suggest it’s outcomes for the next study as an agenda.
We have carried out the study in the school year 2011 and 2012, focused on the field of educational evaluation in the school of some countries, considered a comparison of it’s outcomes and resolutions. And we confirmed the procedure and method having actual proof based on the global standards.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	１，６００，０００	４８０，０００	２，０８０，０００

研究分野：　シティズンシップ教育
科研費の分科・細目：　教育学・教科教育学
キーワード：　シティズンシップ教育、学校パイロット、評価研究

１．研究開始当初の背景
現在、世界でも我が国でも、シティズンシップ教育が注目され、いろいろな国で多様な

形で実施されている。いま、シティズンシップ教育は世界各地で、実践中なのである。

本研究は、池野が研究代表者として、平成１９－２１年度萌芽研究「アジア的シティズンシップ教育とヨーロッパ的シティズンシップ教育の比較調査研究」、および、平成２１－２４年度科学研究費補助金基盤研究(A)「グローバル・スタンダードに基づくシティズンシップ教育の評価研究―教育効果の比較調査―」、さらには、Ikeno Norio(ed.), *Citizenship Education in Japan* (Continuum, 2011)の出版の中で直面した次の２つの研究課題を解決するために計画したものである。

シティズンシップ教育は教育実践、カリキュラム、教育政策のレベルにおいて実施されているが、その効果が問われている。しかしながら、その教育評価研究はわずかであり、ほとんど行わっていない。唯一の体系的研究がイングランドの Benton, T., Cleaver, E., Featherstone, G., Kerr, D., Lopes, J.& Whitby, K. (2008). *Citizenship education longitudinal study: sixth annual report: Young people's civic participation in and beyond school: attitudes, intentions and influences*. London: NFER である。これ以外なく、多くはシティズンシップ教育に関する心象評価にすぎない。

このような現状を乗り越えるためには、世界の代表的シティズンシップ教育研究者が集い、評価計画を策定し、学校パイロット研究として実施し、その効果を検証し、次の IEA シティズンシップ教育研究のアジェンダとすることが必要である。そのための国際的な研究が必要である。

研究を効果的にするためには、評価領域の限定、方法の確立と IEA 次期研究計画策定の探知が必要であった。

実際には、(1)平成２３－２４年の２ケ年で実施し、(2)評価研究の真価を高めるために研究領域を限定し、（３）より詳細なデータ収集を可能にするために、（４）１０ケ国・地域に限り、(5)確立した評価方法を実施、(6)効果の比較検討を行う。その過程で、(7)評価方法と評価規準を実証・実験的に確立する。

本研究は、世界の代表的研究者の協力を得て、IEA が進める世界的なシティズンシップ教育研究の次期研究計画の基盤作りを行うものである。

学術的な特色及び予想される結果と意義として、従来の研究がその成果を国内に限定されていたものが、本研究では、IEA の国際研究の基礎研究として遂行する国際研究である点が、最大の特色である。

これは、日本から発信する国際研究であり、日本が指導し組織する研究でもある。研究の組織化、方法論、手続き、評価方法、成果の公表という点で、従来にない実証的・実験的研究として進められる。

２．研究の目的

本研究では、世界の代表的シティズンシップ教育研究者の協力を得て、評価計画を策定し、学校パイロット研究として実施し、その効果を検証し、次の IEA シティズンシップ教育研究のアジェンダとすることが、その目的である。

３．研究の方法

本研究は、世界の代表的研究者の協力を得て、IEA が進める世界的なシティズンシップ教育研究の次期研究計画の基盤作りを行うものである。

平成２３年度と平成２４年度において、①学校パイロット研究結果を比較し検討し、②研究成果をアジェンダとしてまとめることにしていた。

平成２３年度は、その目標を、①国際研究組織を立ち上げ、②学校パイロット研究計画を策定し、③学校パイロット研究の実施とデータ収集を行うことにした。また、その方法を主に、メールによる情報交換と会議を行うこととした。

まず、行ったことは、フランス、パリにて７月に開催された第３回教育・経済・社会国際会議前後に、フランスグループ、英国グループと話し合った。そこでのアドバイスにもとづき、学校パイロット研究を１０ケ国・地域において、実施し、データ収集を行う基本計画を立案した。

つづき、欧米の評価研究班とアジアの評価研究班を組織し、それぞれにおいて、研究手続き、データ収集、研究方法、評価方法に関して、評価・検討を行うことにした。

欧米班は、アメリカを中心に、アジア班は、韓国を中心にし、それぞれを我が国の試みと比較することにした。韓国に関しては１２月（大阪）と２月（ソウル）に研究交流会を開催した。

平成２４年度では、5月3-5日の韓国小学校訪問、9月23日の韓国での社会科教育学会の研究交流、11月14-18日アメリカ社会科教育学会にて、情報交換と各学校シティズンシップ教育とその評価を行った。

また、9月8-9日の国際会議にても、各地域の学校シティズンシップ教育の比較検討を行った。とりわけ、広島県府中市立明郷小学校・中学校、および、福山市立曙小学校、福岡市立赤坂小学校、韓国、ソウル市ションネ小学校、アメリカハワイのワイキキ小学校、シアトル、ジョンスタンフォード小学校の学校教育とシティズンシップ教育の実情とその成果を評価した。

４．研究成果

本研究は、①学校パイロット研究結果を比較し検討し、②研究成果をアジェンダとしてまとめ、③IEAに報告することにしていた。

本研究の結果、次の３つのことが明らかになった。①各学校はそれなりの成果を上げているが、各々異なったものであり、②各国・地域の実情に合った評価基準の設定が必要であること、③2-3年の長期の観察とその評価が必要であること、である。さらなる研究発展が必要であることが明らかになった。その成果をIEAシティズンシップ教育研究に反映すべきである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）

１．池野範男、シティズンシップ教育はどのようにしてひとを育てるのか、教育研究、筑波大学付属小学校初等教育研究会、No.1330、査読無、２０１２、pp.pp.18-21

２．池野範男・金寶美・福井駿、地域教材と知識の構造図を用いた社会科授業づくりー小学校における社会科授業構成研究（１）ー、広島大学大学院教育学研究科紀要第二部、第 61 号、査読無、２０１２、pp. 47-57

〔学会発表〕（計　１件）

１．池野範男、高校地理歴史科・公民科の授業改革ーなぜ生徒は地理、歴史、公民を学ぶ必要があるのかー、広島大学教育学研究科主催「高等学校教員のための指導力向上セミナー」、2012年3月20日、サンポート高松

〔図書〕（計　１件）

１．池野範男、明治図書、社会認識教育学会編、社会科教育実践ハンドブック、２０１１、pp.233-236

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
池野　範男　（IKENO NORIO）
広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：１０１５１３０９

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：